

動物看護学 対面学習第3回 確認テスト

問題1:動物看護を実践するとき正しいのはどれか。

- ① 動物看護師自身が自信のない技術であっても、練習を重ねて上達することが重要なので生体を実施する。
- ② 適用した効果と結果について観察をし、動物の反応全体をとらえて評価する。
- ③ 動物に看護実践する際は、すべて必ずマニュアル通りに実施することが重要である。
- ④ 動物にとって恐怖や不快であったとしても飼い主からの依頼であれば継続する。
- ⑤ 飼い主とのコミュニケーションが苦手な場合、院長先生に任せたほうがよい。

問題2:動物病院の中で動物の看護をする際に、正しいのはどれか。

- ① 獣医師の診断が出て入院が決定したが、動物看護診断の結果退院がふさわしいと判断し退院手続きをすることにした。
- ② 獣医師から指示があり、その通りに対応していたら動物は悪化した様子があったがそのまま続行した。
- ③ 動物看護診断で問題が抽出されたが、獣医師には報告せず動物看護師の責任で看護計画を立てた。
- ④ 以前に同じ診断名で入院した犬がいたので、その時の処方と同じ処方食を用意した。
- ⑤ 獣医師から処方された薬は錠剤であったが、錠剤を飲むことが苦手な猫だったので他の形状の薬への変更を獣医師に相談した。

問題3:バイタルサインについて正しいのはどれか。

- ① 体重、体温、食欲
- ② 体温、脈拍、呼吸数
- ③ 新鮮な空気、温かさ、陽光
- ④ 睡眠、食欲、排泄
- ⑤ 静かさ、清潔さ、安静

問題4:動物の保定について間違っているのはどれか。

- ① 保定にあたる時は「診療者が作業しやすい」ことを最優先に考える。
- ② 犬の友好性を観察した後、保定動作にうつる。
- ③ かまれる危険性のある犬、猫ではエリザベスカラーやタオルなどを使用する。
- ④ 行き過ぎたウサギの保定で、脊椎を損傷してしまうことがある。
- ⑤ 野生動物の保定には、鎮静剤や麻酔剤を使用することがある。

問題5:動物の保定時に心がける事として、間違っているのはどれか。

- ① 動物がけがをしないように安全に十分配慮する。
- ② 処置の妨げにならないように、いつも強く保定すること。
- ③ 獣医師の処置のやりやすさを考える。
- ④ 飼い主の心情への配慮も大切。
- ⑤ 獣医師や保定者の安全を確保する。

* 出問参考図書:動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 5(ファームプレス社)
動物看護師統一認定試験対策過去問題集 (インターズー)

動物看護学 対面学習第3回 確認テスト 正答

問題1: 動物看護を実践するとき正しいのはどれか。

- ① 動物看護師自身が自信のない技術であっても、練習を重ねて上達することが重要なので生体を実施する。
- ② 適用した効果と結果について観察をし、動物の反応全体をとらえて評価する。
- ③ 動物に看護実践する際は、すべて必ずマニュアル通りに実施することが重要である。
- ④ 動物にとって恐怖や不快であったとしても飼い主からの依頼であれば継続する。
- ⑤ 飼い主とのコミュニケーションが苦手な場合、院長先生に任せたほうがよい。

問題2: 動物病院の中で動物の看護をする際に、正しいのはどれか。

- ① 獣医師の診断が出て入院が決定したが、動物看護診断の結果退院がふさわしいと判断し退院手続きをすることにした。
- ② 獣医師から指示があり、その通りに対応していたら動物は悪化した様子があったがそのまま続行した。
- ③ 動物看護診断で問題が抽出されたが、獣医師には報告せず動物看護師の責任で看護計画を立てた。
- ④ 以前に同じ診断名で入院した犬がいたので、その時の処方と同じ処方食を用意した。
- ⑤ 獣医師から処方された薬は錠剤であったが、錠剤を飲むことが苦手な猫だったので他の形状の薬への変更を獣医師に相談した。

問題3: バイタルサインについて正しいのはどれか。

- ① 体重、体温、食欲
- ② 体温、脈拍、呼吸数
- ③ 新鮮な空気、温かさ、陽光
- ④ 睡眠、食欲、排泄
- ⑤ 静かさ、清潔さ、安静

問題4: 動物の保定について間違っているのはどれか。

- ① 保定にあたる時は「診療者が作業しやすい」ことを最優先に考える。
- ② 犬の友好性を観察した後、保定動作にうつる。
- ③ かまれる危険性のある犬、猫ではエリザベスカラーやタオルなどを使用する。
- ④ 行き過ぎたウサギの保定で、脊椎を損傷してしまうことがある。
- ⑤ 野生動物の保定には、鎮静剤や麻酔剤を使用することがある。

問題5: 動物の保定時に心がける事として、間違っているのはどれか。

- ① 動物がけがをしないように安全に十分配慮する。
- ② 処置の妨げにならないように、いつも強く保定すること。
- ③ 獣医師の処置のやりやすさを考える。
- ④ 飼い主の心情への配慮も大切。
- ⑤ 獣医師や保定者の安全を確保する。

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト 動物看護の基礎 5(ファームプレス社)
動物看護師統一認定試験対策過去問題集 (インターズー)